



法学研究所 第130回特別研究会

民族上の故国への帰還にともなう 韓国系移民のアイデンティティ

講演

チャンズー・ソン (Changzoo Song)

※講演言語: 英語

オークランド大学文学部上級講師・同大学韓国研究所・所長

コメント

金 玲 (法学部准教授)

通 訳

司 会

角田 猛之 (法学部教授)

1949年の中華人民共和国建国以前では、韓国系中国人にとって「故国」(homeland)とは韓国を意味していた。しかし文化大革命の間に彼らは中国を「祖国」(father-land)として受け入れ、さらに文化大革命以後には、彼らは再び朝鮮人としてのアイデンティティを強調することができた。そして、1980年代半ばまでは、中国東北部に居住する朝鮮民族は文化的にも政治的にも北朝鮮に近接していたが、1980年代以降の経済成長に伴い、労働の機会を求めて多くの人びとが韓国に移住しはじめた。また、韓国政府が彼らへの入国ビザ発給を制限した時には、彼らは「故国に復帰する」権利を主張した。

しかしながら、民族上の故国(ethnic homeland)たる韓国において、韓国系中国人は低賃金の移民労働者として差別され、阻害された。そのような経験から、彼らは生国(natal homeland)たる中国へのノスタルジアを募らせたのである。そして同時に韓国系中国人移民は、民族を一にする韓国を文化的に異なるものとしている。このことは、たとえば、中国にある犬肉料理店たる「故郷狗肉館」("Homeland Dog Meat Restaurant")に示されている。彼らは中国の狗肉館の犬肉は、韓国の肉とは違って、より美味なのだと主張している。

以上のような背景を有する韓国系中国人の事例は、韓国に復帰した移住者が有する相反する「故国」の概念を示している。そしてその概念は、アイデンティティ・ポリティクス of 文脈においてはより複雑なものとなるのである。本セミナーでは、民族上の故国への帰還にともなう韓国系移民の間での、アイデンティティの変遷について検討する。

日 時

2016 10/19 WED
15:00~17:30

場 所

関西大学 千里山キャンパス
児島惟謙館1階第1会議室

聴講自由・申込不要

問い合わせ先

関西大学研究所事務グループ

〒564-8680吹田市山手町3-3-35
TEL:06-6368-0329 FAX:06-6339-7721
E-mail :hogakuken@ml.kandai.jp